

自社ブランド不動産開発

三井住友ファイナンス&リース（SMFL）は、自社ブランドの不動産開発に乗り出す。建設や購入した建物で環境認証を取得し、初の不動産ブランド「NEWNO（ニューノ）」として貸し出す。物件はオフィスビルやホテル、倉庫など幅広く想定。環境に配慮した不動産への関心が高まる中、この受け皿にする。まずは2年間で500億円規模を投じる。完全子会社のSMFLみらいパートナーズ（東京都千代田区）が手がける。

A black and white photograph of a modern office building at night. The building has a grid-like facade with many windows. On the upper floors, there are illuminated signs for 'Nippon Seiko' and 'SMBC'. The ground floor features a large entrance with glass doors and windows. The overall appearance is that of a professional corporate headquarters.

を現在の1兆500億円から、早期に約1・5倍の1兆5000億円規模に引き上げる。新ブランドを付けた

開発差別化の環境認証を取得した建物に限定する。環境認証は建築環境総合性能評価システム「CABE」や日本政策投資銀行の「DBIグリーンビルディング認証」などで、いずれも最上位、上位ランクの評価を目指す。

すでに約10物件を計画しており、4物件を具体化させた。4物件は、東京・新宿に開業させた既存オフィスビルを皮切りに、名古屋駅太閤通り近くの新藝術ビル、東京・自由が丘の新築商業ビル、

SMFLは商業のリースに加え、不動産やエネルギー事業を強化している。不動産事業は主にSMFLみらいパートナーズが担う。パートナーズは、みらいパートナーズは不動産資産を年間約2500億円取得し、同約1500億円売却するペースで事業を拡大していく。

金沢・片町の新築ホテ